厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究
総括／分担研究報告書（令和４年度）

IBD 患者に対する予防接種に関するエキスパートコンセンサス

研究協力者　石毛　崇　群馬大学小児科　講師

研究要旨：内科および小児科専門医によるワーキンググループを組織し、コンセンサスに基づいた IBD 患者に対するワクチン接種の手引きを作成した。「ワクチンで予防可能な疾患（VPD)」「生ワクチン」「不活化ワクチン」「妊娠・出産とワクチン接種」の４領域に対し、19 の質問およびその解説を作成した。今年度においては同論文の英文化を進め、論文として公表した。

共同研究者
清水俊明（順天堂大学小児科）
久松理一（杏林大学医学部消化器内科）
渡辺憲治（兵庫医科大学炎症性腸疾患センター内科）
新井勝大（国立成育医療研究センター消化器科/小児 IBD センター）
亀井宏一（国立成育医療研究センター腎臓・リウマチ・膠原病科）
工藤孝広（順天堂大学小児科）
国崎玲子（横浜市立大学附属市民総合医療センター炎症性腸疾患（IBD）センター）
徳原大介（大阪市立大学小児科・和歌山県立医科大学小児科）
長沼誠（関西医科大学内科学第三講座）
水落建輝（久留米大学小児科）
村島温子（国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター）
猪野木雄太（国立成育医療研究センター消化器科/小児 IBD センター）
岩田直美（あいち小児保健医療総合センター感染免疫科）
岩間達（埼玉県立小児医療センター消化器･肝臓科）
肥沼幸（国立成育医療研究センター妊娠と薬情報センター）
清水泰岳（国立成育医療研究センター消化器科/小児 IBD センター）
神保圭佑（順天堂大学小児科）

A. 研究目的

IBD は若年で発症し、かつ免疫抑制療法を生涯にわたり継続する必要がある症例が少なくない。これら症例では学童期や妊娠・出産を控えワクチン接種を必要とする際に、IBD 治療の影響が懸念される。本研究では IBD 診療に携わる医師がワクチン接種に関する情報を適切に収集できる指針を作成することを目的とした。

B. 研究方法

31 名の研究者によるワーキンググループを組織し、学童期・成人に対するワクチン接種およびワクチンにより予防できる疾患への対処について，文献および国内専門家の見解をもとに ，特に IBD 患者において留意すべき点を中心に質問と要約、解説文を作成した。

C. 研究結果

「ワクチンで予防可能な疾患（VPD)」「生ワクチン」「不活化ワクチン」「妊娠・出産とワクチン接種」の４領域に対し、19 の質問およびその解説を作成した。国内の関連ガイドラインや海外における IBD 患者への予防接種ガイドラインなどを参照し、主要な文献データも交えて作成し、全体討議にて内容の修正を行った。以下、掲載された 19 の質問を示す。

（VPD）
・IBD によって VPD のリスクが高まるか？
・VPD のリスクが高まる注意すべき IBD は何か？
・診断時にワクチン接種歴と VPD 既往歴を確認すべきか？
・診断時に VPD の抗体価を測定すべきか？
・抗体価が低直であればワクチン接種あるいは追加接種すべきか？
・接種後あるいは経過中に抗体価を測定すべきか？
（生ワクチン）
・免疫抑制療法中の患者に対して生ワクチンは接種できるか？
・生ワクチン接種と原疾患の治療のどちらを優先するべきか? また，生ワクチン接種を接種する際，免疫抑制療法導入前後に，どれくらいの期間を設けるべきか？
（不活化ワクチン）
・免疫抑制療法使用中患者に対する不活化ワクチンは推奨されるか？
・不活化ワクチン接種を控えるべき状況はなにか？
・インフルエンザワクチンは毎年接種すべきか？　2 回投与したほうがよいか？
・帯状疱疹不活化ワクチンは IBD 患者に有効か？
・肺炎球菌ワクチンは高齢者患者に接種すべきか？
・抗 TNF-α抗体製剤使用中の患者に不活化ワクチンを接種する場合に、投薬と不活化ワクチン接種のタイミングは配慮すべきか？
（妊娠・出産）
・妊娠を希望する IBD 患者に接種が勧められるワクチンは？
・妊娠中の女性 IBD 患者にワクチン接種は可能か？
・妊娠中に免疫抑制薬治療を行った IBD 女性患者から出生した児はワクチンを接種してよいか？
・免疫抑制薬治療中の女性 IBD 患者が授乳している児はワクチンを接種してよいか？

D. 結論

不活化ワクチンについては安全に接種ができること、生ワクチン接種に当たり注意が必要であることを中心に、注意すべき感染症などについても記載し、IBD 臨床に携わる医師にとって有益なエキスパートコンセンサスを作成することができた。同内容について、英語論文化を行った。

E. 研究発表

1．論文発表

研究班ホームページにエキスパートコンセンサスを掲載した。

英語論文：Journal of Gastroenterology volume 58, pages135–157 (2023)に掲載した。

2．学会発表

2022 年度　日本炎症性腸疾患学会　医師向け教育セミナー（Web 開催）にて本コンセンサス概要を解説した。

F. 知的財産権の出願・登録状況

予定なし